

パチスロ史

～誕生から5号機まで～

吉國純生

山佐株式会社 執行役員

第6回 (最終回) パチスロ新時代

繁栄謳歌した4号機時代 激しい反動からいままた

前回は、4号機前半を紹介した。最終回となる今回は、4号機後半から現在の5号機について紹介しよう。CT(チャレンジタイム)機、マルチライン機、大量獲得機に加え、演出用リール搭載というハ

ドを進化させた機種の登場など、パチスロは次から次へと新しい機能を世に紹介していく。それはまるでパチスロには無限の可能性があることを伝えているようであった。そしてその勢いは留まることを知

らずさらに加速していく。

4号機後半

液晶搭載機デビュー 新たな魅力が存分に

1999(平成11)年10月、アルゼ株式会社(現在の株式会社ユニバーサルエンターテインメント)より登場した「オオハナビ」【写真1】は、親しみあるキャラクターの採用、鉢巻リールと呼ばれた4thリールの搭載、そして大量獲得タイプに絶妙な技術介入要素を取り入れたゲーム性が受け入れられ大ヒットを記録する。1999(平成11)年12月には、それまで主基板内でおこなっていた音・光等の制御をサブ基板に移すことが認められたことで、容量の大きい液晶等の搭載が可能となり、長らく登場が待たれたパチスロ初の液晶搭載機がいよいよデビューを果たす。サミ1株式会社の「ゲゲゲの鬼太郎」【写真2】は、まるでテレビアニメを見ているかの如く、液晶ディスプレイ内で繰り上げられる様々なチャンス予告演出で、それまでになかったパチスロの魅力が存分に見せつける。

そして、2000(平成12)年

【写真1】 オオハナビ



【写真2】 ゲゲゲの鬼太郎



© ホンプロ・ソフトガレッジ

2月、千葉県幕張メッセで「パチンコ・パチスロ産業フェア2000」が開催されるが、サブ制御基板の導入が可能となり演出の幅が格段に広がったパチスロへの注目度は非常に高く、パチスロ隆盛期を予感させるものであった。業界関係者の多くは、この時パチスロの勢いというものを直接肌で感じとったことだろう。

チップ改良など対策 ID番号で一元管理

同じくして、主基板のセキュリティ対策についても大きな動きがあった。4号機から日電協メーカーは、メインCPU(中央演算処理装置)として株式会社エリー

テック製の「V1チップ」を搭載していたが、1999（平成11）年10月以降の保通協への型式試験申請機種から「V2チップ」を採用、さらには主基板樹脂ケースに対する「かしめ封印」の採用も開始している。「かしめ封印」の採用は、セキュリティの強化は勿論のこと、それまで新台納品時にパチスロ本体と主基板を別送していたメーカー出荷の流れを見直すきっかけとなり、2002（平成14）年3月からは、本体かしめを施した状態（主基板を装着した状態）での出荷がスタートする。

メインCPUの方は、2002（平成14）年4月の型式試験申請機種より、照合コネクタへの接続により外部から正規品か否かの判定が可能となった株式会社エリートテック製の「V2ライトチップ」、チップ固有のID番号を付与し改良を加えた「V4チップ」、もしくは「V4チップ」同様にチップ固有のID番号を付与し、且つ主基板に直接ハンダ付けしている株式会社ジャパン・アイディー製の「IDNAC」、いずれかを使用するようにしている。

そして、日電協では2003（平

成15）年3月から「セキュリティ総合管理システム」の運用を開始している。「セキュリティ総合管理システム」とは、先述した「V4チップ」、「IDNAC」が持つID番号に出荷情報等の管理データを紐付けして、日電協のデータベースで一元管理するというものである。ID番号が同一のものは存在しないことを利用して遊技機の移動に対する履歴、いわゆる「機歴」の追跡・管理を可能とするシステムを構築したことにより、セキュリティが格段に飛躍したことは言うまでもないだろう。このシステムは、現在もセキュリティの根幹をなすものとして運用されている。

RTと同時期にAT 確固たるジャンルに

市場の方に話を戻そう。2000（平成12）年5月、岡崎産業株式会社からRT（リプレイタイム）を初めて搭載した「ニュートラッド1」【写真3】が登場する。RTとは、リプレイ確率が大幅にアップし、メダルを大きく減らすことなく遊技できる機能で、エキストラゲームと呼ばれる「ニュートラッド1」のRTは、ビッグボーナス終了後

【写真3】 ニュートラッド1



【写真4】 ゲゲゲの鬼太郎SP



【写真5】 獣王

に必ず突入し、50ゲームを消化するかビッグボーナスに当選するまで継続する仕様となっている。

RT登場とほぼ同時期に、サミー株式会社からAT（アシストタイム）を初めて搭載した「ゲゲゲの鬼太郎SP」【写真4】が登場する。ATとは、内部で当選している特定小役やシングルボーナスの押し順や組み合わせを指示（表示）して獲得可能とする機能で、「ゲゲゲの鬼太郎SP」の場合は、ビッグボーナス時に2分の1の抽選に当選

すると、ビッグボーナス終了後に突入して100ゲームを消化するかビッグボーナスに当選するまで継続する仕様となっている。

そしてこのAT機能は、2000（平成12）年12月に登場したサミー株式会社の「獣王」【写真5】でさらに認知され、AT機はパチスロにおいて確固たるジャンルを確立する。「獣王」は、通常時に12種類ある15枚役が頻繁に成立して、ナビのない通常時に獲得するのは困難だが、「サブナンナチャン」（略してサバチャン）と呼ばれる10ゲームもしくは30ゲームのATに当選すると、15枚役を全てナビするので、容易に獲得することが可能となる。ボーナスを引いてもATはパンクせず、またATが連続性を有していることもプレイヤーを魅了する要因となり、瞬く間に市場を席巻する人気機種となる。「獣王」は、まさしくAT機全盛のきっかけを作った代表機種であるといえよう。

「ストック」劇的な進化 4号機後半の主流に

AT機とともに4号機を代表するゲーム性であるストック機も2

23 日遊協 10-11月号

パチスロ史

【写真6】ブラックジャック777



【写真7】キングパルサー



【写真8】ネオプラネットXX



000（平成12）年12月に初登場を果たす。株式会社ネット（現在のネット株式会社）の『ブラックジャック777』【写真6】である。ストックとは、ボーナス成立後もボーナス抽選し、当選したボーナスを貯める機能を持った機種のことであり、『ブラックジャック777』の場合は、ビッグボーナスに当選すると、ボーナス終了後に必ず33ゲームか777ゲームのリプレイ確率が大幅にアップするST（スト

ックタイム）に突入し、この間に引いたビッグボーナス、レギュラーボーナスは全てストックされ、そしてST終了後にストックされたボーナスを放出する仕様となっている。このストック機能は、その後、

劇的な進化を遂げる。内部でボーナスが成立すると外見からは通常状態と判別つかないRTに突入し、既定RTゲーム数の消化、特定役の成立等の条件を満たした後にボーナスを放出するというものである。「シークレットストック」や「サイレントストック」と呼ばれたこのシステムを最初に搭載したのは、

山佐株式会社の『スーパーリノ』だが、2001（平成13）年11月に登場した同じく山佐株式会社の『キングパルサー』【写真7】の大ヒットにより、ストック機はAT機と並ぶゲーム性として認知され、4号機後半には主流のゲーム性として位置付けられるようになる。

ハードの方の進化も止まらない。各メーカーから液晶搭載機が次々と登場していく中、2002（平成14）年6月、山佐株式会社から登場した『ネオプラネットXX』【写真8】は、「エルビジョン」と呼ばれる透明ELディスプレイをリー

ル前面に搭載し、その精細で美麗な光のチャンスアクションは、芸術と称されるほど業界内で高い評価を受け、これまで見たことのない最新鋭パチスロの登場は、市場にセンセーショナルな衝撃を与えた。

ゲーム性と絶妙な演出 人気最高の「北斗の拳」

2002（平成14）

年8月、千葉県の幕張メッセで「パチンコ・パチスロ産業フェア2002」【写真9】

が開催される。この時の産業フェアは、メーカー個々のブース内で工夫を凝らした様々な演出がおこなわれ、また芸能人が多数来場したことも拍車をかけ、スケールの

大きいフェアとなった。来場者数も前回開催された2000年の産業フェアから約2万人増となっており、パチンコ・パチスロ関係なく、まさに業界全体が絶頂期であるこ

とを象徴するフェアであったといえるだろう。

4号機の初登場から10年が経過した2003（平成15）年6月、株式会社大都技研より『吉宗』【写真10】が登場する。『吉宗』は、コミカルなキャラクターの登用とシャッター役物の搭載、そして大量獲得とストックを融合したゲーム性などが市場に受けて大ヒットを記録する。



【写真9】パチンコ・パチスロ産業フェア2002

【写真10】吉宗



特にビッグボーナス中の7揃え等の特定条件を満たした時に発生するボーナスの連続放出は、絶大なインパクトがあり、大ヒット機種に押し上げた要因の一つである。

そして、2003（平成15）年10月、パチスロ史上最高の販売台数60万台超を記録し、今もなお伝説として語り継がれている機種が登場を果たす。サミー株式会社の『北斗の拳』【写真11】である。有名漫画とタイアップ機である『北斗の拳』は、バトルボーナスと呼ばれる「10ゲームの小役ナビゲーム（AT）とJACゲーム」が継続してメダルを増やしていくゲーム性に、さらに期待感を高める絶妙な液晶演出、特定役を引いた際におこなわれるモード移行など、全てが噛み合ったその完成度の高さはまさに名機と呼ぶにふさわしいものであった。

【写真11】北斗の拳



© 武論尊・原哲夫/NSP 1983 © Sammy

5号機時代 払い出し上限も厳しく 「ストック」は全面禁止

全てが良い方向に向っているように見え、順風満帆という言葉がぴったりと当てはまっていたパチスロ業界であったが、AT機、ストック機、大量獲得機など多彩なゲーム性が描く出玉の波は、「いたずらに射幸心を煽ってはならない」

という風適法の基本理念からは離れていく結果となり、ついには出玉の抑制を目的とした規定の改正へと繋がっていく。そして、まだパチスロ人気絶頂状態であった2004（平

成16）年7月、新しい遊技機規則が施行され、メーカーは、約13年という長きに渡り慣れ親しんだ4号機から新しい規定に基づいた5号機開発へと移行していく。5号機は、出玉試験が厳格化されており、それまでもあった長時間（1万7500ゲーム）での出玉率に加え、

中時間（6000ゲーム）、短時間（4000ゲーム）での出玉率も新たに型式試験内容で定められている。また、ゲーム性についても4号機に比べると非常に厳しいものとなっている。ビッグボーナスは払い出し枚数が規定枚数に達することで終了し、その払い出しの上限も480枚となっているので、500枚以上獲得可能な大量獲得機は作れなくなり、他にストック機能

は全面的に禁止、ATの搭載自体は禁止ではないが、成立したフラグは全て揃うものとして出玉試験が行われているため、4号機のようなAT機は作れなくなっている。5号機の規定が明らかになって、その内容に愕然とした業界関係者は多かつたはずだ。また、ハード面での不正防止対策の厳格化も5号機の規定の特徴である。

この時は、まだ『吉宗』や『北斗の拳』といった4号機の人気機種が稼働しており、また、2005（平成17）年6月に登場し、ボーナスへの期待を高める前兆演出などがプレイヤーに受け入れられ大ヒットを記録した株式会社大都技研の『押忍！番長』【写真12】など、販売を控えている4号機を複数、各メーカーは保有していたため、新しい規定への移行に伴う大きな混乱は起こらなかった。しかしながら、4号機の完全撤廃、5号機への完全移行のリミットまで確実には経過をしていたのである。



【写真12】押忍！番長

盛り上がりも悲しい 4号機満了イベント

新基準機種の5号機はというと、2005（平成17）年9月に株式会社ビステイの『新世紀エヴァンゲリオン』【写真13】が、初のパチスロ5号機として登場を果たす。

『新世紀エヴァンゲリオン』は、4号機に比べるとどうしても緩やかな出玉の波を描かざるを得ないゲーム性ではあったが、通常ベースの高さからくる遊び易さと秀逸したリーチ目、そして多彩な演出は、

迎える度に開かれるホールでのさ中することはほとんどなかった。特に4号機種種の検定期間満了を

【写真13】新世紀エヴァンゲリオン

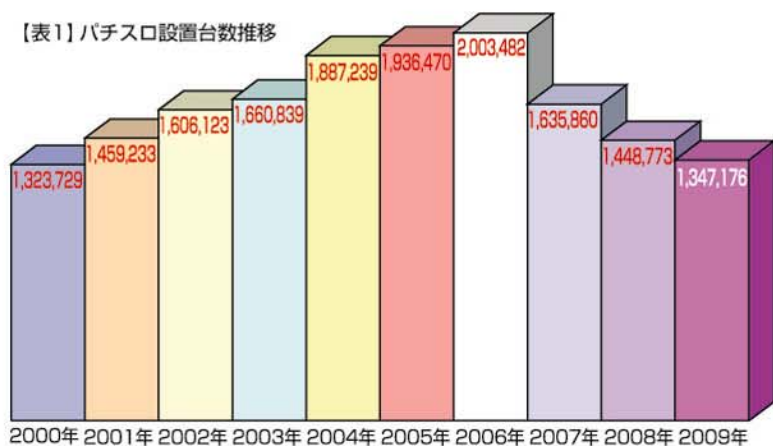


© GAINAX / Project Eva. すべて権利 © Fields Corporation. All rights reserved.

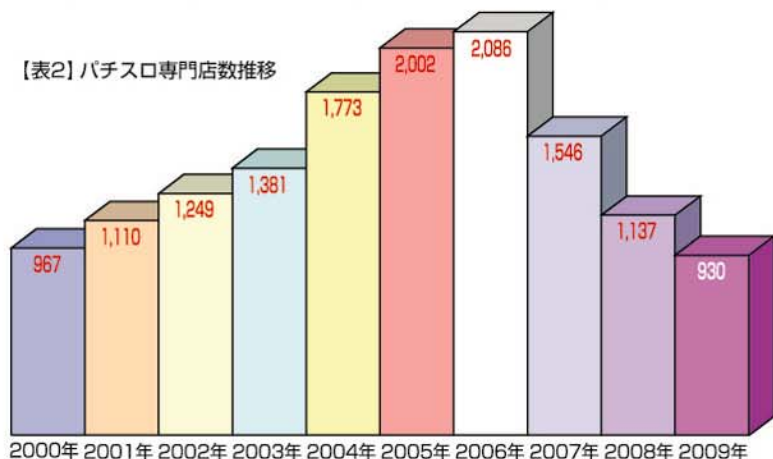
よならイベントは、まるで二度と会えない友人に別れを告げるかのような盛り上がりや哀愁が混在する、それまで見たことのない光景であった。

ここで5号機移行へ大きく影響する「みなし機の撤去」について触れておこう。まずパチンコ、パチスロ問わずパチンコ店に設置している遊技機をカテゴリーで分けた場合、大きく3つに分けられるのはご存知だろうか。一つは検定期。これは、メーカーが保通協への型式申請で適合した遊技機を都道府

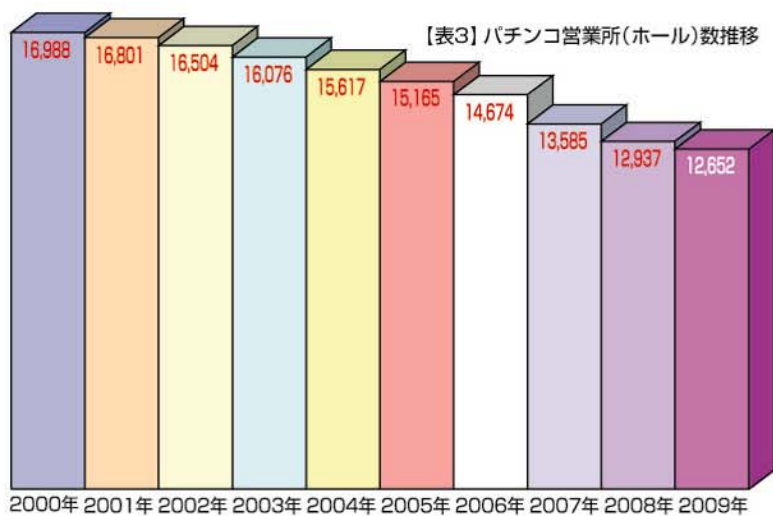
【表1】パチスロ設置台数推移



【表2】パチスロ専門店数推移



【表3】パチンコ営業所(ホール)数推移



県公安委員会に検定期間をおこなう、公示の日から3年間の設置を可能とする遊技機を指している。2つ目は認定機。これは、ホールが遊技機の諸元表等の必要書類を用意して、都道府県公安委員会にいきなり認定申請をおこなう方法もあるが、基本的には、検定期間内に認定申請をおこない、認定を受けた日からさらに3年間の設置を可能とする遊技機を指している。認定機となれば、故障の際の修理交換をおこなうことができ、また同一県内の同一法人の店舗であれば、移動することが可能となる。3つ目は、みなし機。これは、もともと1985（昭和60）年の風適法施行前の遊技機を指している言葉だが、現在では、同一規則下において検定期間は認定の有効期限が切れている遊技機を指している。みなし機の場合は故障しても修理交換ができないので、故障したら必然的に台を外すことになる。新規規則の施行にあたって、このみなし機が「容易に不正な改造その他変更が加えられるおそれのある遊技機であること」という射幸心をそそるおそれのある遊技機基準に抵触しているという理由に完全撤去が

【写真14】 アイムジャグラーEX



絶え間ない開発努力 5号機に明るい兆し

決まり、ついに2006(平成18)年6月20日を最終期限としてみなし機は姿を消し、そして一部残っていたパチスロ4号機は検定機・認定機ともに2006年中に期間満了を迎え、市場から姿を消していった。こうして、パチスロは期待と不安が交錯する5号機時代へと完全移行していく。

業界にとって様々な出来事が集中した2006(平成18)年、パチスロ中古機流通についても大きな動きがあった。「機歴管理システム」を構築した回胴遊商が中心となり、それまでメーカー主導が進められ

てきたパチスロ中古機流通を、パチンコ同様に販売業者主導で行うというものである。さらに2008(平成20)年には、パチスロの認定申請についても回胴遊商中心の流れがスタートしている。

さて、ここで5号機移行に伴いパチスロの置かれた状況がどのようにに変化したのか、パチスロ設置台数推移【表1】、パチスロ専門店数推移【表2】、パチンコ営業所(ホール)数推移【表3】を見ていただきたい。明らかにパチスロ業界が苦境に立たされているのがお分かりになるだろう。過去にも冬の時代といわれた時はあったが、5号機当初は厳冬の時代といってもいいほど、パチスロ業界は不安の渦に巻き込

まれていた。そんな苦しい中でもメーカーは絶え間ない開発努力を続け、その結果、少しずつではあるが明るい光が見えてくる。

2007(平成19)年1月、株式会社北電子から登場した「アイムジャグラーEX」【写真14】は、「GO GOランプ」を搭載したジャグラーシリーズの最新作且つ5号機最初のジャグラーとして注目を集め、その絶大な人気は、ジャグラーブランドの地位を不動のものとする。また、5号機が登場して暫くは、「アイムジャグラーEX」のようなビッグ、レギュラーの両ボーナスで出玉を増やすオードソックスなタイプが多く、ゲーム性が単純化するのではという不安が後を絶たなかったが、その後の様々な機種タイプの登場がその不安を払拭している。

ボーナス成立後のRTを利用するということそれまでにないゲーム性を有した株式会社ジェイピーエスの『2027』【写真15】、選べる3タイプのART(アシストリプレイタイム)を搭載し、ARTのゲーム性を広く知らしめた山佐株式会社の『パチスロ戦国無双』【写真16】、秀逸した出目と完成度の高い演出、

【写真15】 2027



【写真16】 パチスロ戦国無双



【写真17】 パチスロ交響詩篇エウレカセブン



【写真18】 新鬼武者



そしてARTを第3のボーナスとして位置付け好評を博したサミー株式会社の『パチスロ交響詩篇エウレカセブン』【写真17】、バランスのとれたゲーム性と見るものを魅了する多彩な演出で今日も高稼働を続けている株式会社ロデオの『新鬼武者』【写真18】、伝説の名機「北

【写真20】「なんとかしようよ!!パチスロ文化」討論会の様子



【写真19】パチスロ蒼天の拳



© 原哲夫・武論著 2001, 著作権特許証SAH-310 © Sammy



【写真21】「パチスロの日」ポスター

2009(平成21)年3月、日電協、日工組、電遊協と、いずれの組合にも所属していない賛同会員メーカーの計82社による「回胴式遊技機製造業者連絡会」が

斗の拳」を完全継承したサミー株式会社「パチスロ蒼天の拳」【写真19】など、まさに多種多様である。今後バラエティーに富んだ魅力あふれる5号機が登場し、パチスロ業界は活性化していくに違いない。メーカーのパチスロ開発への果て無き挑戦はこれからも続いていくことだろう。

連載を終えて
ひとりひとりの熱意が

私の30年余りの業界経験をもとに、これまで6回に分けてパチスロの歴史を紹介してきた。パチスロの進化の過程は、皆様にはどのように映ったのだろうか。これを機にパチスロの成り立ちを理解してもらえれば幸いであるし、またこれまで以上にパチスロを好きになってもらえれば非常に嬉しく思う。

近年、パチスロ業界は、設置台数の減少が示すとおり、非常に厳しい状況下に置かれている。その状況を打破しようと、各組合同士が協力してパチスロをサポートしようとする動きが積極的にとられている。

設立され、パチスロの様々な諸問題に対して、一丸となって問題解決を図る体制が確立している。

また、日電協と回胴遊商が主催して、2010(平成22)年2月に「なんとかしようよ!!パチスロ文化」【写真20】というイベントを開催している。パチスロファンを交えた討論会は、大変な盛り上がりを見せた。

さらに同年7月には、8月4日を「パチスロの日」に制定するキャンペーン【写真21】を行い、ポスターやチラシなど様々な媒体を通してパチスロを盛り上げている。まさにパチスロの繁栄を切に願う関係者一人一人の熱意が、今日のパチスロ業界を動かしているといっても過言ではないだろう。

最後に、パチスロ史の執筆にあたり、ご協力いただいた方々、そして最後までお付き合いいただいた皆様方に、この場を借りて深く感謝の意を送りたいと思う。

パチスロとは、その歴史が示すとおり、無限の可能性を秘めたものである。

吉國純生